



構造と 診断

ゼロからの診断学

岩田健太郎

診断とは何か?

根源的に、そして真摯に、患者と向き合い、
診断に近づいていこうとする

岩田健太郎, 初の診断論!

医学書院

構造と診断

ゼロからの診断学

岩田健太郎 = 著

本体 2,500 円 + 税 / A5 判・218 頁 / 医学書院 / 2012

本稿のご執筆者の 1 人である岩田健太郎先生による「初の診断論」。『感染症外来の事件簿』(2006)、『感染症外来の帰還』(2010)、『感染症のコントラバースー——臨床上のリアルな問題の多くは即答できない』(2011) も併せて読みたい(いずれも医学書院)。

「病気を診断することについて、深く考えてみるのが本書の目的である」。この書き出しで始まる本書を手にする読者には、難解きわまる診断学論を期待する向きもあるだろう。しかし、読み進めるうちに気づくのは、「古今東西の叡智を援用しつつ、そこで著者が語るのは、臨床という名の戦場を『診断』という陥穽にはまらずに、患者とともに生き抜く戦略だ」ということである。著者初、ユニークなサバイバル診断論! 「診断」という罠を知り、次の一手を考える。